

チョウセンブナ (ゴクラクギョ科)

学名：*Macropodus chinensis*

別名：ジシンプナ, トウギョ

大きさ：4~7 cm

特徴：口が小さく、体は側扁し、背びれと尻びれの先端が長い。尾びれは丸みを帯び、切れ込みはない。鰓蓋の後縁に青い斑紋がある。オスは背びれや尻びれの先端がメスよりも長く(写真)、産卵期には全てのヒレが青色の模様が発現して美しい婚姻色を示す。産卵期は6~7月頃で、オスは口より気泡を出して浮き草などに産卵床をつくる。オスは卵と仔魚の世話をする。

国内の分布：新潟県、長野県、埼玉県、岡山県の一部。本種は1914年頃に朝鮮半島から移入された。原産地は中国長江から朝鮮半島西部。

県内の分布：近年の状況は不明であるが、1953年頃までは霞ヶ浦周辺の小さな流入河川や溝などに多く生息していた。霞ヶ浦

湖内では、溝ほどはいなかったようである。また、県内各地の比較的浅い沼や池などに棲んでいたこともあったとされている。

備考：霞ヶ浦周辺では1930年頃は土浦周辺などでよくみられたが、1953年頃から激減し、ほとんど見られなくなった。2006年7月上旬に行方市の農業用水路で再発見されたが、再発見以降、同場所では全く確認されていない。

主な文献：

川那部浩也・水野信彦編(1989)日本の淡水魚。山と溪谷社、東京。719 pp.

自然環境研究センター編(2008)日本の外来生物。多紀保彦監修、平凡社、東京。479 pp.

レイモン・アザディ(1983)茨城の淡水魚。筑波書林、土浦。93 pp.

レイモン・アザディ(1987)霞ヶ浦の魚たち。筑波書林、土浦。95 pp.